

(事後評価)

卓越した若手研究者の自立促進プログラム

(実施期間：平成19～23年度)

実施機関：東京大学（総括責任者：濱田 純一）

プロジェクトの概要

優秀な若手研究者の自立を促進するための全学的仕組み作りのモデル構築と位置づけ、当面は基礎自然科学系の研究所をモデル部局とし、卓越した研究者の育成を行う。モデル部局は、事業開始4年後の一定数の承継ポストを本事業推進委員会に委託し、推進委員会はその委託ポストの2倍程度の助教から准教授相当の若手研究者を国際公募し、5年の任期を付けて採用する。モデル部局は採用された研究者が自立して研究を行うための環境整備およびメンター制度などあらゆる支援を行う。推進委員会は、採用3年目に中間評価を行いテニユアの可否および継続を決め、5年任期終了前にテニユア審査を行い、適任者にはモデル部局の教員とすることを決定する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
B	b	b	b	b	c	c

総合評価：B（所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる）

(2) 評価コメント

機関レベルで任期付き教員の承継ポストへの採用、教授ポストの振替制度、年俸制などの人事改革が実施されているが、これらの改革は本プログラムの趣旨を踏まえた施策ではなく、テニユアトラック制（以下「TT制」という。）試行の結果とは言い難い。今後はモデル4部局での試行の成果に基づいて部局の特徴を踏まえつつも、TT制の広範な導入の仕組みそのものを創り上げることが必要である。

- ・**目標達成度**：本プロジェクトの採択条件であった「全学に本テニユアトラック制度を波及させるための具体的な方策を立てる」及びミッションステートメントに記載された「テニユアトラック制度による採用が若手研究者の登竜門となるような制度設計を行う」について十分に達成されているとは言い難く、適切な制度の設計を全学レベルで行うが必要である。

- **国際公募・選考・業績評価**：テニユアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）の多様性は確保されているものの、TT 若手の選考プロセスに海外研究者の参画がなく、また、直前職が自機関であった TT 若手の比率も高く、今後の TT 制の継続・定着に向けて透明性や公平性を確保することが必要である。
- **制度設計に基づく実施内容・実績**：自機関にテニユア職として採用した者のうち、半数以上が任期付きの職であることなどを踏まえて、本プログラムの趣旨を十分に活かした TT 制を維持・発展させるための制度設計の改善が必要である。また、本プロジェクトによる実績を踏まえた TT 制を他の部局に波及させる方策を立案・実施することが必要である。
- **制度設計に対するマネジメント**：本プロジェクトの実施期間中にモデル4部局を対象とした PDCA サイクルに基づいた運営の改善が行われた事例が少ない。今後は、全学的な教員採用人事の刷新を目指すにあたっては、TT 制を活用した新たな施策の立案・実施を行うことが必要である。
- **実施期間終了後における取組**：本プロジェクトを実施した成果と課題を分析し、機関としての TT 制導入に向けた全体像を構築して、体系的な若手研究者育成を目指した TT 制を全学に展開するための取組が不十分である。
- **中間評価の反映**：中間評価結果において求めた「本プロジェクトのモデル部局とした4研究所における定着への道筋を付け、全学への波及を目指した継続性・実効性のある人材養成システムの構築」の実施が不十分である。